

伝統を
次の世代に
つなぐ

おぢやんしょインタビュー①

泳ぐ宝石、錦鯉

小千谷は昔から養鯉業が盛んで、その歴史は古く、江戸時代後期までさかのぼります。食用として飼われていた真鯉に突然変異で色彩のある鯉が出現。後に改良を重ねられ、色彩や斑紋・体形など多彩な品種の錦鯉が作り出されてきました。今や「泳ぐ宝石」と呼ばれる小千谷の錦鯉。販路は海外へ広がるなど、新しい時代を迎えています。

復興の象徴となった 小千谷の錦鯉

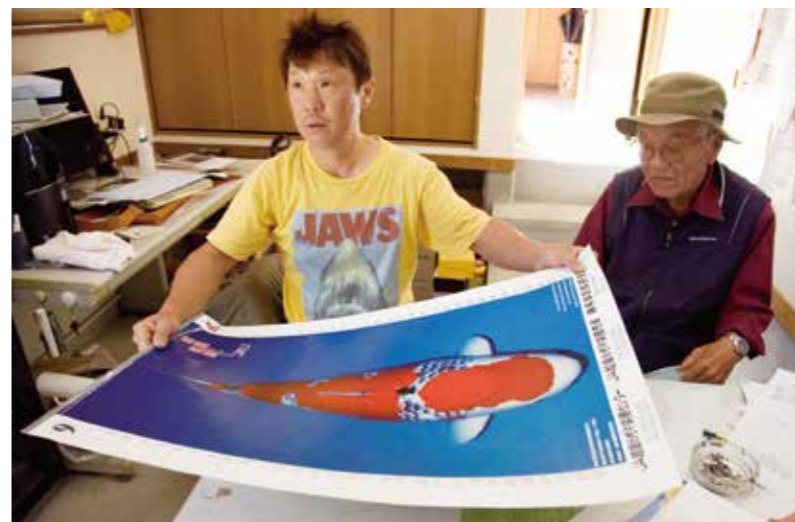
小千谷市の東山地区、金倉山中腹の小栗山に広井養鯉場があります。近くには木喰観音堂や小千谷闘牛場があり、山深い静かな場所です。広井養鯉場は、養殖面積約10町歩、紅白・三色・昭和五色といった品種を中心に錦鯉の生産販売をしています。趣味で鯉を飼っていた初代（広井国安さんの父）が看板を上げてから80数年が経つそうです。

小千谷市の中でも水が清らかで地味のよいこの東山地区には養鯉場が集中しており、そしてその多くが中越大震災で甚大な被害を受けました。広井さん宅も養鯉場ともども被害を受け、ポンプが止まり2万数千匹の鯉が死んでしまいました。避難所・仮設住宅と約2年間の避難生活を送りましたが、錦鯉への情熱は熱く、その間、畑を借りて仮の養鯉池を造って養鯉業を続けたそうです。そんな広井さん親子にお話を伺いました。

作っているのは芸術品 誇りを持てる仕事です

国安さん 父親の錦鯉作りを小さい頃から手伝って、興味もありました。中学の時には、自分で育てた鯉を売ったりしてましたよ。養鯉業は生きもの相手の仕事。365日面倒をみないとなりません。毎朝、すべての池を回って、水の状態やえさの食具合などをチェックします。経験と勘が出来を左右するので、そこが難しくもあり面白いところですね。

一恵さん 私も小学校に上がる前から池に連れて行かれました。半強制的に継がされたわけですが、いつのまにかこの仕事が好きになってましたね。こんな田舎の山の奥まで、時には海外から愛好家が訪れる。芸術品としての価値を認められる人たちがいることにやりがいを感じています。これからは家業を継いだ私たちの世代が「小千谷の錦鯉」という伝統を守っていききたいと思っています。



愛好者も出品に加わる第43回全日本総合錦鯉品評会（平成24年）で、広井養鯉場は作者として種別日本一（75部五色）に。平成24年度の小千谷の錦鯉カレンダーにその鯉の写真が使われました。



「泳ぐ宝石」の美しい姿をいつでも間近に鑑賞できる「錦鯉の里」。池の中に錦鯉が泳いでいる公園、錦鯉の歴史や品種・飼育方法など各種資料の展示、逸品を集めた鑑賞池などで構成されています。



品評会に出せる品質の鯉は、広井養鯉場では1万匹に1匹くらいの割合でしかできないそうです。



平成26年10月23日、新潟県中越大震災からの復興の象徴として、震災から10年目の節目に合わせて「錦鯉」は「市の魚」に制定されました。



小千谷市の養鯉業界は震災の大きな打撃から復興を遂げ、鯉師の技術は親から子へと着実に引き継がれています。



水質、水温、えさの種類や与え方などを微妙にコントロールしながら育てていきます。365日、毎日の管理が不可欠です。

先人の努力と小千谷の豊かな自然が生み出した芸術品、錦鯉

錦鯉は、雪国の清らかな水と伝統の技法で育てられた独特な色調を持つ流麗な体形から、別名「泳ぐ宝石」とも呼ばれています。その優雅な美しさは、鯉師が長い年月をかけた努力と技術があってこそ生まれるのです。現在では錦鯉といえば小千谷というほどその名は全国的に知られ、国内はもちろん海外においても高い評価を得ています。小千谷市内の各養鯉場や定期的に行われる品評会には、国内外から愛好家が訪れます。

Brocade carp is a work of art created by the efforts of our forebears and Ojiya's abundant nature.

The brocade carp is also known as 'a swimming jewel' for it has an elegant form with unique colors, which are developed by the pristine waters of a snowy region and traditional techniques. Its elegant beauty is created as a result of the many years of effort and skills of the carp master. Today, brocade carp is synonymous with Ojiya, and is highly valued not only in Japan, but also overseas. Brocade carp enthusiasts visit from Japan and abroad to the carp farms and fairs regularly held in Ojiya City.



広井養鯉場では、小千谷市街が見渡せる山間の野池でも錦鯉を育てています。雪国の清らかな水と地味の豊かさが錦鯉を生んだとも言われています。

Brocade carp, the swimming jewel.

Carp farming has been popular in Ojiya since the olden days, and its long history goes back to the late Edo period. One day, carp that were raised as food mutated to bear colors. Enhancements were made to them over time, resulting in brocade carp of a variety of species with different colors, patterns and shapes. Ojiya's brocade carp are now known as 'swimming jewels'. A new era has arrived as they are marketed abroad.



広井養鯉場
（屋号：与左工門）
二代 広井 国安さん
三代 広井 一恵さん